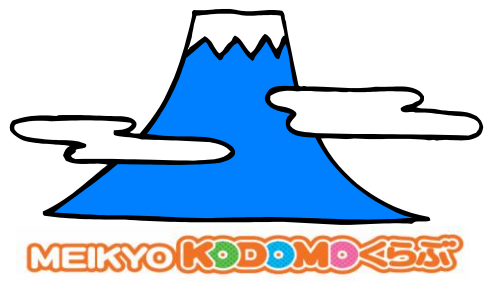


ほつぷ すてつぷ じゃんぷ

特訓進学塾

名教



2011年度版 第7号

塾長コラム

あんぱんち

第十八回

寒くなってきました。体調をくずしている子どももいます。体調管理には十分に気をつけ、元気に通塾してほしいなと思います。

さて、先月末の新聞に、4人の子を持つタレントの中山秀征さん、つるの剛士さん、サッカー日本代表の遠藤保仁さんを「イクメン オブ ザ イヤー」に選んだという記事がありました。父親も育児を楽しもうと訴える団体が、10月19日を「イクメンの日」と定め、子育てに積極的に取り組む男性を、表彰しているのだそうです。私も、4人の子を持つ父親です。この記事が目にとまりました。

中山秀征さんは、育児に力を入れるようになったきっかけを、「人数が増えて妻だけでは手に負えなくなった。」と振り返っているそうです。また、つるの剛士さんも、「育児が第一ではなく、妻のことを思って自然に手伝っている。」とコメントをしています。2人共通で、「子ども」ではなく、「妻」とを語ったという点に興味を持ちます。この記事を読みながら、CBCテレビの「ホンネ日和」という番組で、つるの剛士さんが、知の巨匠・元東大教授の養老孟司さんと、対談していたのを思い出しました。つるのさんと言えば、「育児休暇をとったというのが話題になりました。これについて、番組で養老さんが話したことが大変印象深いものでした。それを紹介したいと思います。」

養老式「子育て論」

——奥さんの機嫌を取る、これこそが夫婦円満&育児の秘訣。家族みんなが笑顔でいられる環境こそが、よりよい育児環境となる。男性の育児参加で大切なのは、おしめを替えることではなく、奥さんを気遣うこと。「育児は母親主体」という傾向が強い現代社会だけど、育児は夫婦同等の責任を持つことが絶対条件！ただ、育児に協力するといっても、おしめを替えるなどではなく、日々育児に奮闘する奥さんへの気遣いが大切！

「お母さんの機嫌が良ければ、子どもだって嬉しいんだよ」

ところで、ファザーリング・ジャパンというNPO法人が、「子育てババ力検定」というのを実施しています。各種メディアでも紹介され、東京都など公の機関も後援しているものです。以前、私も、どんな検定なのか、どんなことを問われるのかに興味を持ち、検定対策のテキストを読みました。内容という点、妊娠・出産、赤ちゃんの病気などのテーマについて設問に答えると言うものです。いわゆる机上の知識がほとんどでした。我が家では、「母親でも分からないことがたくさんだよ！そういうことは、知識も大事だけど、知識はその場で調べればいい。大切なのは、子どもへの思いじゃないの!」なんて会話をしたのを覚えています。知識よりも、「思い」が大事。おしめかえよりも、奥さんへの気遣いが大事という「養老式 子育て論」、私も養老式にハッと気付かされました。そして、とても共感しています。憎悪ながら、名教生のお父様、一度、養老式をご覧になってはいかがでしょうか。お勧めです。

(塾長 西川 陽祐)

今月の論語

子曰く、由や、女六言の六蔽を聞けるか。

六言とは、仁・知・信・直・勇・剛のことなり。六蔽とは、愚・蕩・賊・絞・乱・狂のことなり。

「六言」というのは人間としての徳を表す言葉のことです。「仁・知・信・直・勇・剛」の六つをいいます。これらはよいものだけれど、「一歩間違えたら」と「六蔽」、つまり、「六つの害」を生み出してしまふというのです。

孔子は、弟子の子路に、「六つの害があることを知っているか？」と聞きました。子路が「いや、聞いたことはありません。」と答えると、「じゃあ今から教えるから、そこに座って聞きなさい。」といって、孔子は教えていきます。

「仁を好めども学を好まざれば、其の蔽や愚」

相手に対して優しく思いやりをもって接しても、本当の仁とは何かを学ばなければ、ただのお人好しになってしまう、ということ。

「知を好めども学を好まざれば、其の蔽や蕩」

浅知恵ではなくて、しっかりと勉強して本当の知識を身につけなければ、自信過剰になりがちだ、ということ。

「信を好めども学を好まざれば、其の蔽や賊」

信頼や誠実といった人間として大切なものを一所懸命に求めていても、本当の誠実とは何かを学んでいかないと盲信になって、相手を傷つけることになる、ということ。

「直を好めども学を好まざれば、其の蔽や絞」
率直で素直なのはすくいいことだが、学問をして心に余裕を持たなければ、汲々としてゆとりのない世の中になってしまう、ということ。

「勇を好めども学を好まざれば、其の蔽や乱」
自分の感情の赴くまま、これが正義だと盲信して行動してしまうと、この世の中は乱れていく、ということ。

「剛を好めども学を好まざれば、其の蔽や狂」
強くて堅いだけではなくて、本当に強くて堅いとはどういうことを学んで身に着けなければ、心の柔軟性を失って、自分勝手な行動を起こしてしまう、ということ。

良いと思ってしまうことでも、しっかりと勉強しなければ間違ったことになることがある、ということ。参考図書 瀬戸謙介『子供が喜ぶ「論語」(致知出版社)』

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール19 かわりの先生が授業をするときにも、わたしが授業をするときも同じルールを守ること。

ルール20 次の約束を守ろう。

- A 許可なく席を立たない。ただし、気分の悪いときはべつ。
- B つぎのようなとき以外は、おしゃべりをしない。
 - 1 手を上げて指名されたとき。
 - 2 質問に答えるとき。
 - 3 休み時間と昼食時間。
 - 4 それ以外で、教師から指示があったとき(たとえば、グループ作業のとき)。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ～子どものためのルールブック～

(ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社)より